

各教科の一単位時間の配慮点

指 導	の 配 慮 点	観 点	別 の 授 業	改 善 の 視 点		
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	話す・聞く能力をを向上させるための手だて	書く能力を向上させるための手だて	読む能力を向上させるための手だて	知識・理解・技能を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席を徹底させ、教科書・ノートなど必要な物を机上に準備しておく習慣を付ける。 ・本時の学習課題やねらいを明確にする。 ・初発の感想を大切にする。 ・教材の提示の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書を紹介して、読書のきっかけを作る。 ・題材や話題に興味をもつように工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことを必要に応じメモすることを指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く能力の向上のための基礎・基本が定着しているか短文を書かせ確認する。 ・語彙力の向上を目指し、辞書を使って調べる習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の論の展開をおさえるために、接続詞や指示語に着目して読むこと、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見を読み分けること、指示語の指し示す内容が直前にあることを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導においては、漢字の練習や小テストを実施する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・発言が活発に出る雰囲気を心掛け、生徒が学びの主体となるように配慮する。場合によってはグループ学習等を採用し、意見交換をさせる。 ・視覚的に効果のある簡潔な板書を工夫する。 ・理解に不十分な生徒を授業中における発問やノート提出等で確認し、個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に効果のある簡潔な板書を工夫する。 ・語彙力の向上を目指し、辞書を使って調べる習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容に迫る重要語句を中心とした発問を用意し、内容を理解させる。 ・板書されている以外の内容をノートにメモさせる。 ・級友や同じグループの人の意見を聞き、自分の考えを深めさせる。 ・自分の考えを理由を説明しながら話すように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論の展開が追いやすいワークシートの工夫をする。 ・書く能力の向上を図るため 5W1H を意識した答えが書き込めるように指示する。 ・語彙力の向上を目指し、辞書を使って調べて書く習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の論の展開をおさえるために、接続詞や指示語に着目して読ませる。 ・中心的な部分と付加的な部分、事実と意見を読み分ける指導を行う。 ・指示語の指し示す内容が直前にあると意識させ、論理的な理解ができよう指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎の定着と意欲の向上を図ると共に辞書の活用を勧め語彙の習得に努めさせる。 ・ノートやワークシート記入時には適切な漢字を使用するように指示する。 ・古典では、現在と違った意味で使われる語に注意させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・感想や意見を交換し生徒相互が良い影響を受け高めあう環境を作る。 ・問いに対する答え方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想や意見を交換し生徒相互が良い影響を受け高めあう環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1Hを意識して表現させる。 ・5W1Hを意識して聞きとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1Hを意識して書けたか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の文章を比較して読み、それぞれの文章ごとの論の展開や結論を読み分ける指導を行う。 ・教材を使って読む能力を養いながら内容を読解するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導においては、次の授業で漢字小テストを実施する旨を連絡し、家庭学習を促す。

各教科の一単位時間の配慮点

指導の配慮点		観点別の	授業改善の	視点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムと同時に授業を開始する ・本時の学習課題やねらいを明確にする。 ・必要に応じ発問を通して前回までの内容を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えやすい平易な内容の発問で発言しやすい雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の課題を思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて簡単な板書補助プリントなどに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて簡単な板書補助プリントなどに記入させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・発言が活発に出る雰囲気づくりを心掛け、生徒が学びの主体となるように配慮する。 ・視覚的にわかりやすく簡潔な板書を工夫する。 ・理解が不十分な生徒を発問や机間巡視時のノートで確認し、個別に援助する。 ・生徒の持つ一般的な常識や概念を揺るがすような事実や概念を提示することで、知的好奇心を刺激する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の工夫。 ・発問の工夫。 (平易なクイズ的发問等) ・興味を持ちやすいエピソードの紹介 ・ほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えさせる発問の工夫。 ・ディベートや、ディベート的な議論をこちらから提案し引き込む。 ・クイズ的发問。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や考え、感想の発表の場を多く設ける。 ・資料を調べて発表する活動を多く取り入れる。 ・新聞形式にまとめるなどして、プレゼン形式の発表の時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて簡単な板書補助プリントなどに記入させる。 ・必要に応じて、小テスト的プリントを行う。 ・因果関係をおさえやすい板書の工夫。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時での学習事項の確認と次回は何を学習していくかを伝える。 ・場合によって、新たな疑問点を提示し、宿題として考えてくること、考えをまとめてくることなどを指示する。 ・時間内できちんと終われるように心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に新たに獲得した知識や認識の確認。 ・またそれによって新たに到達した認識と、疑問の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に新たに獲得した知識や認識の確認。 ・またそれによって新たに到達した認識と、疑問の確認とヒントの提示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて簡単な復習プリントなどに記入させる。 ・資料調べの宿題など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて簡単な復習プリントなどに記入させる。

様式 4

学校番号 (中 0 4)

学校名 (練馬区立中村中学校) 教科名 (数 学)

各教科の一単位時間の配慮点

指導の配慮点		観点別の	授業改善の	視点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業前に教室に行き教室環境を整える。(黒板をきれいにする・ゴミを拾う) ・ チャイム着席の徹底をし、集中させる環境を作る。 ・ 服装を正す。 ・ 前の授業の復習を行う。 ・ 本時の目標を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時では何を学んでいくのかを伝える。 ・ 新単元の導入の際には自作教材を用いるなどして導入で工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な問題に触れられるようにプリントを多数準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に小テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概習事項の確認を行う。 ・ 定期的に小テストを行う。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導を重ねることにより生徒の理解度を観察し、生徒1人1人にあつた指導を行う。 ・ ノートをとる時間と説明を聞く時間をしっかりと分ける。 ・ 集中できていない生徒や姿勢の悪い生徒がいたらその都度必ず指導する。 ・ 生徒に話しかける際は生徒と同じ目線になるようにし、理解できているかを判断するために、目を見ながら指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正解した場合には褒めることで、生徒の意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定理がなぜ成り立つかの証明をきちんと行う。 ・ 証明問題はすべてきちんと書かせる。 ・ 解答をすぐに教えるのではなく、考えさせる。(解答だけでなく途中の式を大切にす) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の理解度に合ったプリント教材を用意する。 ・ 課題が終わったら問題集をやることを習慣付けさせることにより授業に対して常に集中する雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用語・定義の暗記を徹底させる。 ・ 机間指導しながら正しく問題を解いているか確認し間違えている場合はその都度わかるまで教える。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時での学習事項の確認と次回は何を学習していくかを伝える。 ・ 時間できちんと終わるように心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何を本時で学習したかを確認復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別解などがある場合は、紹介していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題がきちんと解けたかどうかをノートやプリントを提出させることにより確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時で学習した用語や定理を確認する。

各教科の一単位時間の配慮点

指 導 の 配 慮 点		観 点 別	の 授 業 改 善	の 視 点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席の習慣を徹底する ・落ち着いて授業を受ける準備をし集中を高める ・ノートなどを活用してこれまでの学習内容を振り返り、基礎的な発問によって定着を確認する ・本時の課題を提示し目的を明らかにする ・T 1 の指導にあわせて T 2 が机間指導し補充的な指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが答えられる身近な発問から進める ・多くの意見を引きだし自由に発言する雰囲気をつくる ・身近な現象を示し興味を引き出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な現象から科学的事象へ結びつける発問をおこなう ・生徒の発言をヒントとして手順を示しながら考察する 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で挙げた意見をまとめ重要な項目を確認する ・ポイントを整理し板書する 	<ul style="list-style-type: none"> ・T 1 の指導の流れに従って、T 2 が補充的指導を行う ・一般的な現象の解説から発展的な考察に至る発問で興味・関心を引き出す
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の流れを視覚的に整理するためワークシートや補助資料として視聴覚教材を活用する ・図やグラフを活用してノートにまとめやすい板書を工夫する ・実験の目的と方法を確認し作業内容を整理する ・安全上の注意を徹底し、落ち着いて安全に実験操作を行う姿勢を定着させる。 ・作業の進度に合わせて T 1、T 2 がそれぞれ机間指導しながら補足説明や援助を行う ・実験の結果、記録の取り方を班ごとに確認しまとめを促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート等を活用し実験の目的を明確にする ・試行錯誤の時間を十分に確保する ・作業が遅れている班に支援をおこなう 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の目的に沿って結果を予測する ・実験の操作の意味と注意点を整理する ・考察の時間を十分に確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の目的を意識させる指導を行う ・手順の確認と、安全の確保を行う ・進度に合わせて班ごとに結果を確認する。 ・目的にそって結果を記録する指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の基礎操作を十分に習得し安全に実験ができるよう指導する ・使用する薬品の性質やはたらきを丁寧に確認する
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果から目的に沿ったまとめを工夫する ・班ごとに結果を考察する ・考察の進度に合わせて T 1、T 2 がそれぞれ机間指導しながら補足説明や援助を行う ・図やグラフから読み取った内容や活用の仕方を整理し、考察に役立つノートづくりを指導する ・目的に沿った記録の取り方を班ごとに確認する ・片づけの指導を徹底し、落ち着いて安全に実験を行う習慣を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・班での話し合いに疑問や意見を自由に発言できる雰囲気をつくる ・考察の段階にあわせた援助を行い実験の目的を全員が達成できる指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の目的に沿った考察ができていることを確認する ・実験の中から身近な現象に結びつけて考察する習慣を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の意味や用法を正しく理解できるよう指導する ・目的に沿った図やグラフを作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容と単元との位置づけを確認する ・実験の結果から科学的事象の法則を見いだす指導を行う ・その時間の学習内容の確認を行う

各教科の一単位時間の配慮点

指導の配慮点		観点別の	授業改善の	視点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席ができるように、教材忘れをしないように繰り返し指導する。 ・本時のねらいを板書し、生徒に課題をつかませる。 ・教材に関連するCDやビデオを用意し、生徒に曲のイメージをつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連するCDやビデオを聴かせ、どのようなイメージをもったか自由に発表できる雰囲気をつくり、興味をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲のイメージを自分たちの演奏で生かすために、どのような工夫をしたらよいか考えさせ、本時の見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用意し、一時間分をまとめられるようにする。 ・できる生徒には副次的な旋律も練習できるように教材を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えなければならぬ音楽用語は、画用紙や模造紙にまとめ、いつでも掲示できるようにしておく。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ作りでは、仲がいい者どうしでかたよらないよう、クラス全体のことを考えてつくるように指導する。 ・グループ内での話し合いが活発にできるように助言する。 ・協調、協力しながら活動しているか巡回観察し助言する。 ・発表の場を設け、発表する側、聴く側のマナーを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で教え合ったり、助け合ったりして、協力しながら活動できるように助言する。 ・巡回観察し、グループごとにあった助言をし、意欲を引き出す。 ・生徒の考えのよさを認め、意見を発表しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を真剣に心をこめて聴かせ、互いの工夫のよさを感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視し、一人一人の技能的な状況を観察し課題を与える。 ・他のグループの演奏や意見を参考に、クラスにその技能を広げていく。 ・発言はどのような内容であっても認めながら、音楽的な内容と結びつくようフォローする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に書かれている音楽用語や記号を確認する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに簡単な自己評価や友達への評価を取り入れる。書けない生徒への支援をする。 ・最後に、今月の課題が解決されたのか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己評価や友達への相互評価も取り入れ、今日の学習を振り返るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづいている生徒には、この時間で自分が感じたことを書くように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力しながら活動しているグループや表現の豊かなグループなどを称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをワークシートにまとめ、コメントを一言は書くようにする。

各教科の一単位時間の配慮点

指導の配慮点		観点別	授業改善	視点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備をする。 ・制作のポイントを明確にする。 ・今後の予定を示し、見通しをもって、制作できるようにする。 ・作業手順を確認する。 ・参考作品や、作業の手順、色見本など、視覚的に理解しやすいような提示の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の優れた生徒作品を鑑賞し、制作意欲を高め、制作の方向性を十分確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の作業における、注意事項と間違えやすいところを確認する。 ・作業手順を図で表したり、色見本などを用意し、視覚的に理解しやすいような提示の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴や、用具の扱いなどを理解させる。 ・多様な表現方法の作品例を提示し、発想を広げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の安全な使い方や材料の特徴について、資料集や、プリントを参考に指導する。 ・基本的な美術の知識を図版や映像で提示する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、生徒全員の作品を確認し、個別に指導を行う。 ・制作過程の節目で作品を提出させ、制作方向の誤りを早期発見して、助言を行う。 ・自主的に作業を行うことが難しい生徒を介助する。 ・また、放課後等に補習をして、制作時間の不足を補う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアがスムーズにうかばない生徒には、個別指導において、本人の表現したい事項を引きだし、発想できるような助言を行う。 ・制作過程で、見本になるような生徒の作品を、他の生徒に見せて、制作の方向性を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや図書室などを活用して、自分の制作に必要な資料を調べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本を理解した上で、自由に制作できるようにし、本人の表現意図に合った方法を助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を正しく扱っていない生徒には、個別に指導する。 ・学習した美術の知識を制作に生かせるように助言する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業内容と持ち物について確認する。 ・今後の予定を示し、制作が遅れている生徒には、昼休みや放課後に作業を進めるように促す。 ・毎時間自己評価カードに記入させ、自身の反省と制作時の疑問や方向性を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の作業を振り返らせ、自己評価や友達への相互評価もさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品完成後は、制作過程を振り返り、工夫したところや、反省点を具体的に書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を振り返り、工夫したところや反省点、その理由を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を安全に正しく扱うことができたか確認する。 ・基本的な美術の知識が身に付いたかテスト等で確認し、復習させる。

様式 4

学校番号 (中 0 4)

学校名 (練馬区立中村中学校) 教科名 (保健体育)

各教科の一単位時間の配慮点

指導の配慮点		観点別の	授業改善の	視点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムと同時に準備体操が始められるように、更衣などを素早く済ませ、体育係を中心に集合・整列する習慣が身に付くように指示する。 ・準備体操の際は全員で大きな声を出させるよう声をかけを怠らない。 ・本時の活動の目的や課題などを具体的かつ簡潔に説明する。 ・発問などを工夫し、前回の授業と本時の活動をリンクさせ、生徒の意欲関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技の特性に応じて、補強運動などにバリエーションを多くし、飽きさせないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育係を中心にして、お互いに声かけができるようにすることで、授業への集中力を上げる支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備体操、補強運動の意義を理解させ高いパフォーマンスを発揮する準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に取り組む内容についての予習をステップアップ中学体育などを参照に行う習慣を身に付けるように助言する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しむため、様々な角度から合理的に取り組めるようにする。 ・活動中は、個々の生徒に声かけを行う。 ・各単元において、評価の観点を意識した実技テストを実施する。 ・学習カードを使用することで目標を明確にし、意欲的に取り組めるようにする。 ・運動の楽しさだけでなく、課題克服による喜びも味わえるよう目標設定の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容と目的を明確に伝える。 ・個々の能力、習熟度に合わせた取組をさせることで意欲的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動の中で自主的に授業に参加する姿勢が身に付くように支援する。 ・技術の向上以外にも安全面への配慮についても十分に指導する。 ・自己分析を通して技術向上の工夫を行うように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードなどを使い自己分析をさせることで、個人の目標設定を明確にする。 ・グループ活動や個別の指導などを通して、教え合い、できる喜びを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明は簡潔に要点を分かりやすく伝える。 ・実技だけではなく、審判法などの知識についても、その重要性を理解出来るように指導する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・発問や学習カードなどを用いて、本時の活動のまとめを行う。 ・次回の授業への目標設定を行う。 ・ケガなど体調チェックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を振り返る時間を設け、次時への課題把握 ・目標設定に繋げるように指導する。 ・整列や服装、後片づけの徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カード記入などにより、反省と次回の目標設定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理運動によって疲れを残さないようにする。 ・本時のポイントを確認し、次回の課題を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの発問などを工夫することで、理解を深める指導をする。

各教科の一単位時間の配慮点

指導の配慮点		観点別の	授業改善の	視点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律：チャイム着席ができるように、生徒を指導する。準備すべき用具などについて忘れ物をしないように指導を行うことで学習規律を確立する 板書：本時の学習内容とを目標を示し、生徒に課題の把握をさせる。 教材提示：工具などは具体的に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の生活の中で活用されている事例を示しながら、導入を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活の中で体験している事柄と結びつけて考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークブックを使い、学習の目標が明らかになるよう工夫する。また、定期的にワークシートを使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 覚えなくてはならない科学的な事項や、工具の安全な使用方法について、まずは教科書、ワークブックを利用して特徴を理解させ、また視覚教材を教示できるようにしておく。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 発言が活発に出る雰囲気を中心掛け、生徒が学びの主体となるように配慮する。 視覚的に効果のある簡潔な板書を工夫する。 理解に不十分な生徒を把握に努める。 定期的に取り、生徒の自己評価・授業評価を元に修正を行いながら、分かる授業の展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に効果のある簡潔な板書を工夫する。 事例を選別し生徒が寄り興味が持てる事柄を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を理解させる。 具体的な事例について自ら調べ理解する態度や能力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に工具の特徴を説明し、手本を示し、実践させる流れで行う。また、内容によっては展開が追いやすいワークシートの工夫をする。またはワークブックを活用したり、インターネットなどを用いて調べる習慣を身に付けさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎の定着と意欲の向上を図る。 生活の中で感じる疑問について、調べ理解しようとする気持ちを育てる指導を行う。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 板書：本時の学習内容とを目標が達成できるように、授業のまとめとなるキーワードを示し、生徒の理解の定着を図る。 評価：ワークブックを利用したり、ワークシートの評価欄に評価を記入させる。(生徒の自己評価) 授業構成：次回の学習内容について、確認する。最後に、本時の学習目標が達成されたか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な評価を取り入れ、本時の学習を振り返るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめが書きにくい生徒に対してキーワードを示しながら、まとめる援助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業手順について、確認を行わせるとともに、より効率的な取り組みになるよう考えさせ、振り返らせたり、ワークシートにまとめさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した事柄についてまとめ、本時で何を学習したのかを指導する。

各教科の一単位時間の配慮点

指 導 の 配 慮 点		観 点 別	の 授 業 改 善	の 視 点	
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断を向上させるための手だて	表現・技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムと同時に授業を開始する ・全員が授業に向けての集中力を付けられる活動をする。 ・既習事項を用いて、身近なことについて英問英文を行い英語学習の雰囲気を作る。 ・前時の復習を行い、学習内容の確認と定着を図る。本時の学習へと結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが楽しんで取り組める活動を行い、積極性を引き出す。 ・学習した言語材料を実際に使用してみることで、学習に対する意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語を書く活動を継続的課題として表現力の育成へと結びつける。 ・既習事項の繰り返し学習を行うことにより、そのまま英語で捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の言語材料を用いた身近な内容についての英文を聞いて理解し、内容を答えられるような活動を継続的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確認を行い、学習内容の定着へと結びつける。 ・個別発表を行い、定着度を確認する
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・Picture Cardを活用し、本時の学習内容の自然な理解に役立てる。 ・Frash Cardを活用し、新出単語の指導に役立てる。 ・新出の言語材料を定着させるための工夫をする(発問、板書、学習活動、Worksheet活用)。 ・机間巡視を行い個別指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出言語材料と既習事項を対比しながら、違いを発見させる等、生徒の気付きを大切にす。 ・学習内容を推測させ、確認することにより学習に対する意欲を高めるとともに、学習に対する積極的な態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然な英語で音読する練習をする。 ・本時の学習内容を聞いて理解させる ・文字を提示して、読んで本時の内容を理解させる。 ・既習事項との対比を行うことにより、理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出事項を用いて表現活動まで内容を高める。 ・書く活動を継続的に取り入れ、書くことに対する抵抗を少なくする。 ・正しく書けるようにすることを目標とし、反復練習を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題を行いながら、基礎となる言語材料の理解と定着を図る。 ・基本問題だけに留まらず必要に応じて練習問題を増やす等の工夫をする ・文型ドリル帳等を活用する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・新出言語材料を用いての言語活動を工夫し、コミュニケーション力育成へと結びつける。 ・基礎的な課題と発展的な課題を提示し、各自取り組ませる。 ・机間巡視により個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料を理解し題材への理解を深められたか確認し次時の学習内容への興味関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークで読みの確認をする。 ・ペアワークで新出言語材料を用いて言語活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TFや英問英答などの活動を通して内容理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題が正しく書けたか確認する ・学習内容を応用できたか発表させ確認する。